

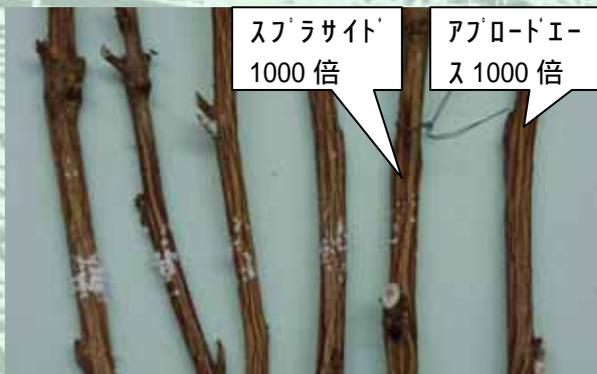
# クワシロカイガラムシの薬剤感受性の低下

## [研究のねらい]

- ・静岡県では、クワシロカイガラムシの多発状況が続いている。
- ・現場から、既存の薬剤の効果が低下してきたとの指摘があり、多発要因として薬剤感受性の低下が考えられた。
- ・そこで、既存の数種薬剤に対するクワシロカイガラムシ幼虫の薬剤感受性を明らかにする。

## [研究の成果]

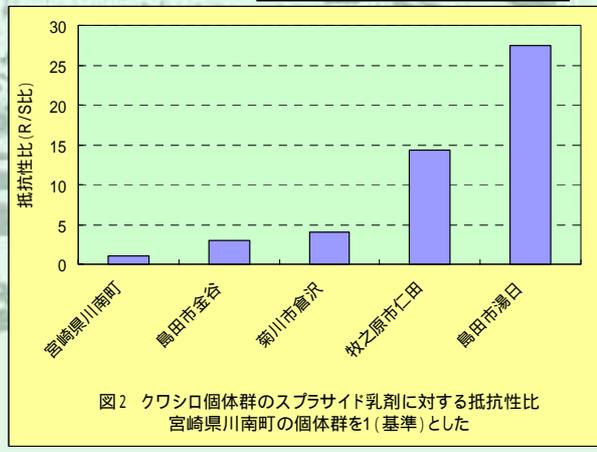
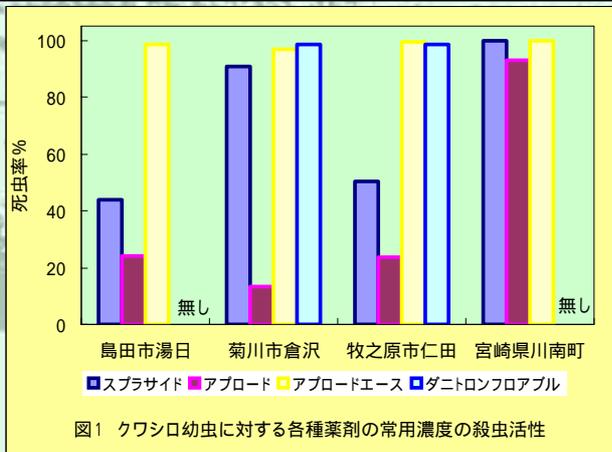
- ・県内個体群のアプロード水和剤1,000倍における死虫率は宮崎県の個体群に比べて総じて低く、本剤に対する感受性は大きく低下していた(図1)。
- ・スプラサイド乳剤1,000倍における死虫率も場所によっては低く、感受性の低下が認められた。
- ・アプロードエースフロアブル1,000倍における死虫率は、いずれの個体群でもほぼ100%であった(図1)。本剤の殺虫活性は、混合成分の一つであるダニトロンが主体と考えられる。
- ・スプラサイド乳剤に対する抵抗性比(R/S比)は、宮崎県川南町の個体群のLc50値を1とした場合、島田市湯日の個体群が最高27.5倍を示し、地域によってはスプラサイドの薬剤抵抗性が発達しつつあることが示唆された(図2)。



牧之原市仁田個体群の薬剤処理3週間後の状態。右から3本目以降は、順にスプラサイド2000、4000、8000、無処理



宮崎県川南町個体群の薬剤処理3週間後の状態



問い合わせ先 生産環境(病害虫) 0548-27-2885  
代表 0548-27-2880  
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp